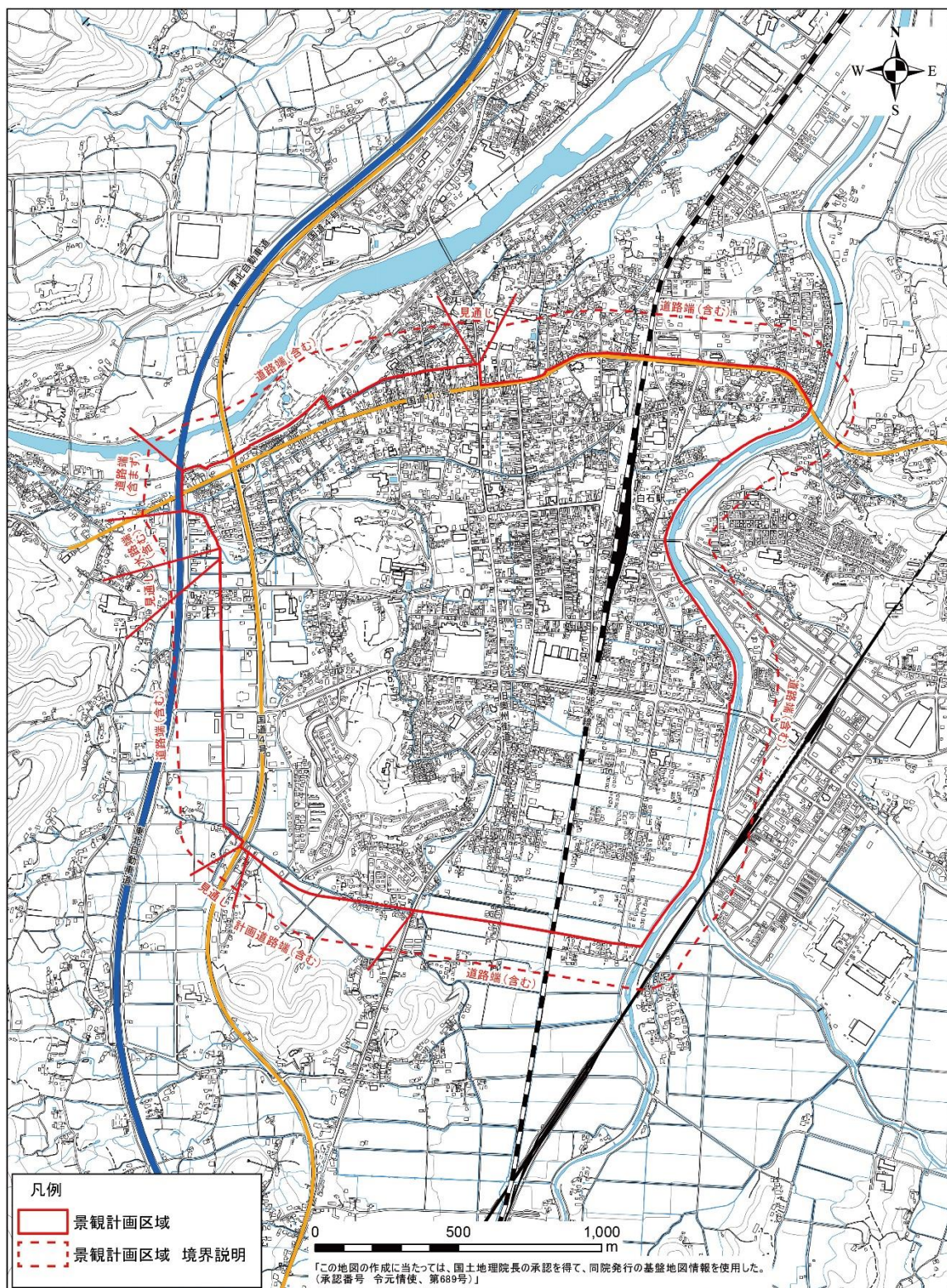


## 第4章 地区別の景観計画区域，景観形成方針（良好な景観の形成に関する方針） 及び景観形成基準

### 1 白石市中心部地区

#### （１）景観計画区域

白石市中心部地区の区域図を以下に示します。





## 【区域の考え方】

白石市中心部地区の区域は、以下の考え方を踏まえて設定しました。

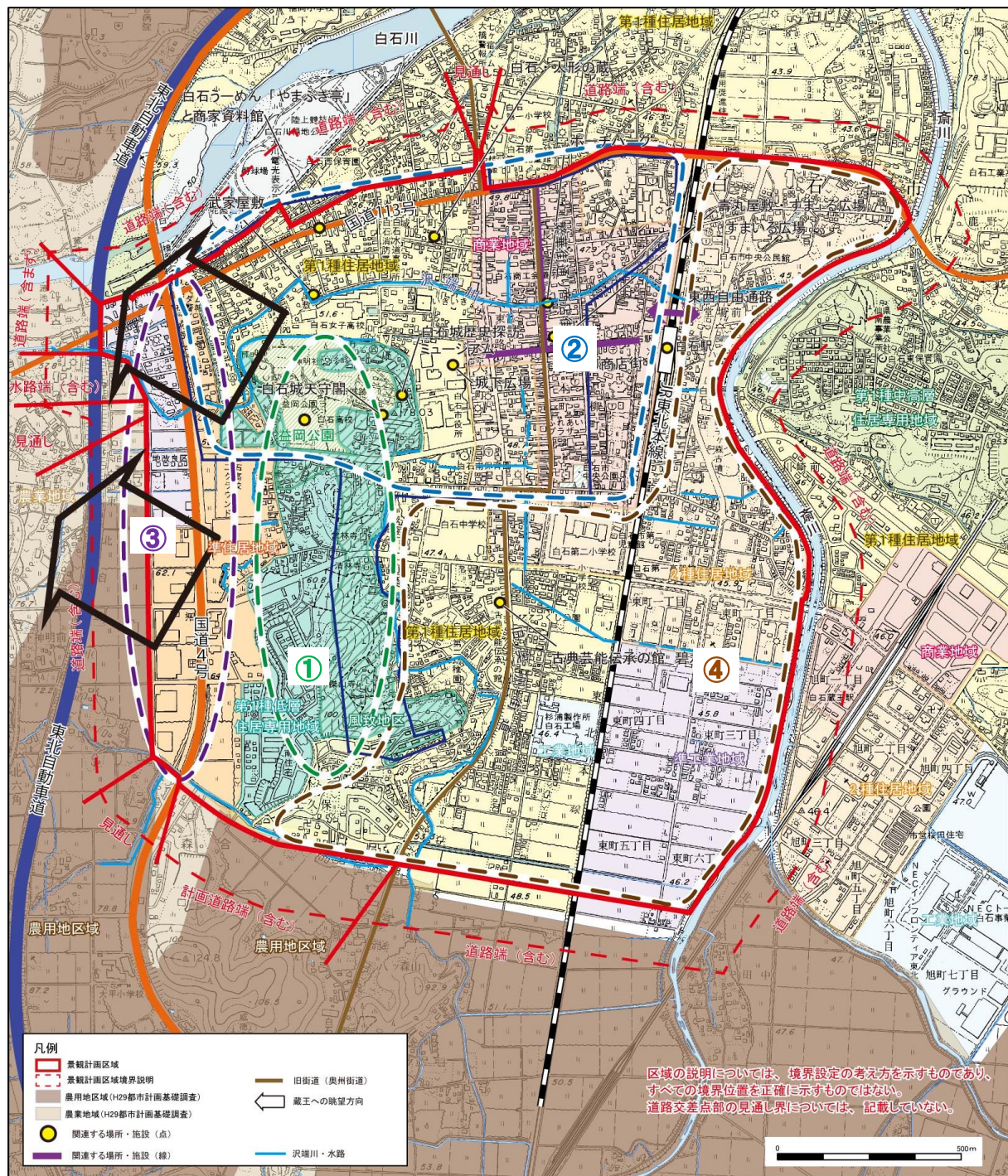
当該区域を指定する目的
<ul style="list-style-type: none"><li>・仙南地域を代表する白石城下町としての歴史性を継承するとともに、かつての奥州街道の白石宿の名残を活かし、白石市の中心を担う地域を対象として市街地景観の形成を図ることを目的とする。</li><li>・白石市の中心部において、官民が協力・連携した景観まちづくりのきっかけにつなげるとともに、白石市の顔づくりにふさわしい、一体性を持った市街地景観の形成を図ることを目的とし、景観計画区域を指定する。</li></ul>
地区内で見られる景観（景観の概況）
<p>■仙南地域らしさを象徴する景観</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・白石城の二の丸・三の丸や国道4号からは、蔵王連峰を遠景に望むことができる。</li><li>・丘陵部には木造建築による白石城が建ち、城下には豊かな水を湛える堀や水路が巡る水辺と市街地が一体となった特徴的な景観が形成されている。</li><li>・武家地や旧奥州街道沿道の町場由来を残す旧城下町のエリアは、当時の町割りのまま市街地が形成されている。</li></ul> <p>■地区固有の景観</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・益岡公園では、春には白石城天守閣と園内の桜が相まった、白石ならではの趣ある景観が形成されている。</li><li>・駅前には観光案内所や名産品である温麺の飲食店などがあり、町の玄関口としての景観が形成されている。</li><li>・国道4号沿いは大型商業店舗が並ぶ沿道景観が見られる。</li><li>・緑豊かな風致地区の東側では、田畑と住宅地が混在し、閑静な住宅地の景観と田園景観が見られる。</li></ul>
区域設定の考え方
<p>■基本的な考え方</p> <p>仙南地域を代表する歴史的な都市である白石市の核であり、中世からの要衝であった白石城下町を中心に、仙南地域の大動脈である奥州街道の白石宿、また近代に入り鉄道網の整備に合わせ新たな玄関口を担う JR 白石駅周辺にかけた白石市の中心部を対象に、景観まちづくりの観点から白石市都市計画マスタープランを踏まえつつ、景観形成を通して一体的な市街地環境の保全・形成を目指した区域を設定する。</p> <p>■個別の考え方（丸数字は、次ページの図中の丸数字に対応）</p> <p>①城山から南に連続する丘陵地</p> <p>市の中心を担う市街地の背景となる緑を有する風致景観として保全を図る必要があるため、区域に含めた。</p> <p>②白石城下町を中心とした市街地</p> <p>蔵王連峰や白石市内を望むことができる白石城天守閣や一体で特徴的な景観を形成している白石城址公園、水辺と市街地が一体となった特徴的な景観を形成する堀割を含み、当時の町割を残す白石城と旧城下町の範囲は、景観の保全を図る必要があるため、区域に含めた。</p> <p>また、都市の始まりである白石城下町を中心とした近代化の中で玄関口を担う白石駅周辺にかけての商業・住宅系市街地は、中心部における賑わいある市街地として、一体的な取組が必要であるため、区域に含めた。</p> <p>③城山の西を南北に通る国道4号沿い</p> <p>移動に伴い蔵王連峰への眺めを楽しめるエリアとして、沿道での大規模土地利用に対して周囲の景観との調和を求める必要があるため、区域に含めた。</p>



## 区域設定の考え方（つづき）

### ④白石駅南部・東部に広がる市街地

白石駅南部・東部に広がる市街地は、旧城下町や駅周辺商業地から連続する既成市街地である一方で、大規模工場跡地の利用や工業系地域における未利用地の計画的な土地利用誘導が求められる市街地である。そこで、白石市の中心部に広がる市街地景観の形成に向けて、旧白石城下町及び白石駅周辺と一体となった景観形成の取組を通して、新たな魅力を創出する市街地環境の創出を目指したまちづくりの実現を目的に、中心部地区の区域に含めることとした。



▲区域設定検討図



## (2) 景観形成方針

白石市中心部地区における景観形成方針を以下に示します。

### ■ 自然景観の保全

- ・ 城山から南に連続する丘陵地の樹林地がつくり出す風致景観の保全を図る。
- ・ 地区内を流れる沢端川や水路における水辺景観の保全を図る。

### ■ 個性を活かす景観の創出

- ・ 屋敷地や町人地等の土地の歴史性を今に伝える景観を活かした市街地景観の形成を図る。
- ・ 白石駅周辺では、街の玄関口にふさわしいもてなしを感じさせる景観形成を図る。
- ・ 遠方にそびえる蔵王連峰への眺望と調和し、魅力ある眺望を活かした景観形成を図る。
- ・ 周囲に広がる市街地では、中心部と調和しつつ、誰もが心地よく住みやすいと感じられるまちづくりの実現に向け、緑豊かな落ち着いたきのある景観形成を図る。

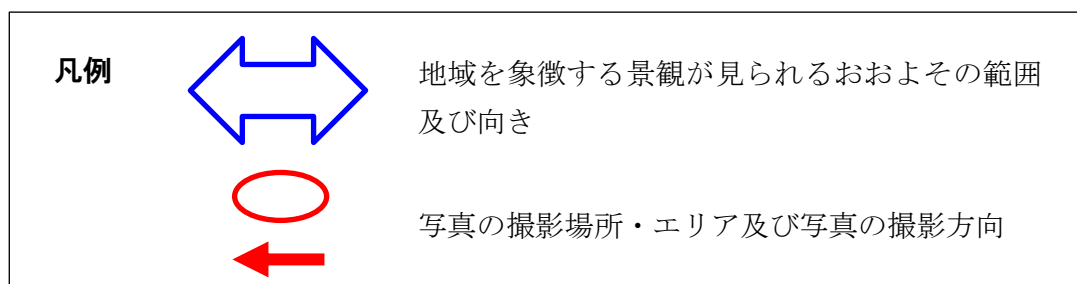
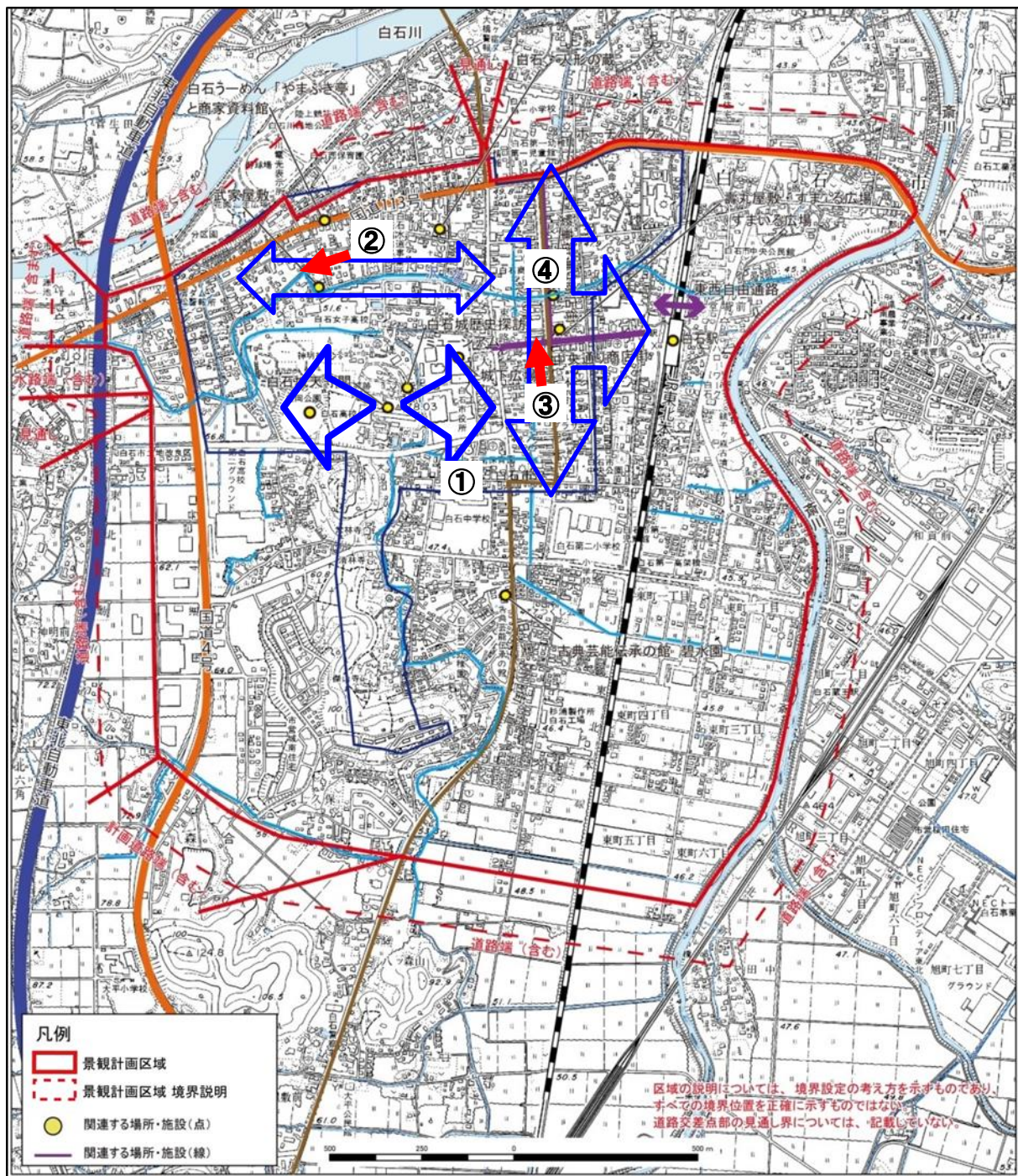
### (3) 景観形成基準

白石市中心部地区における景観形成基準を以下に示します。

#### ▼景観形成基準

行為	項目	景観形成基準 ※■:地域の特徴を踏まえた基準
建築物 ・工作物	配置・位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 旧城下町等の歴史を有するエリアでは、周囲との連続性に配慮した配置とする。</li> <li>□ その他のエリアでは、周囲の環境に配慮したゆとりある配置とする。</li> <li>□ 大規模な施設となる場合には、オープンスペースを有効に配置し、潤いある市街地景観の形成に努める。</li> </ul>
	高さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 旧城下町等の歴史を有するエリアでは、かつての歴史を今に伝える歴史的な風情に配慮し、周囲と調和した高さとする。</li> <li>■ 国道沿いからの眺望に配慮し、蔵王連峰の山並みを阻害せず、周囲と調和した高さとする。</li> <li>□ その他のエリアでは、周囲と調和した高さとする。</li> </ul>
	形態・意匠	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 商店街や駅周辺等の商業系市街地の通り沿いでは、通りに面して低層部に開口部を設ける等により、遮へい性を低減し、歩行者からの見え方に配慮した賑わいを創出する景観の形成を図る。</li> <li>□ 住居系市街地では、周囲から突出する奇抜なものは避け、周囲と調和した屋根、外壁等の形態・意匠とする。</li> <li>■ 沢端川等の水辺では、水辺を活かし周囲の自然と調和した形態・意匠となるよう配慮する。</li> <li>□ 大規模な建築物等では、長大な壁面を避け、周囲に与える圧迫感の軽減に努めた形態・意匠となるよう配慮する。</li> </ul>
	色彩・素材	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 旧城下町等の歴史を有するエリアでは、伝統的な建造物等と調和するよう、外壁や屋根における素材や色彩に配慮する。</li> <li>□ 外壁の基調となる色彩は、高彩度の色は避け、色彩を組み合わせる場合には、全体としてのトーンを合わせた統一感のある配色とする。</li> <li>□ 屋根の色彩は、建物との調和に配慮し、周囲から突出しないものとする。</li> </ul>
	設備類	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 屋上設備、屋外設備は、建築物との一体化や道路等の公共空間から見えない位置に配置する。やむを得ない場合には、通りからの見通しに対する遮へい等を行い、周囲の景観に影響を与えないよう配慮する。</li> </ul>
	外構・緑化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 道路との境界部にオープンスペースを設ける場合には、樹木や花壇等を活用し、潤いある通り景観の創出に配慮する。</li> <li>□ 駐車場を設ける場合には、出入口を最小限に整理し、道路境界部や敷地内における植樹等、周囲に閑散とした印象とならないよう配慮する。</li> <li>■ 伝統的な様式を有する門・塀や生垣等、旧城下町の風情を伝えるものは、できる限り、保全し、城下町らしさを創出する要素として活用するに努める。</li> </ul>
開発行為・土地の形質の変更・木竹の植栽伐採	造成等	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 既存の地形を活かした造成に努め、切土・盛土は最小限とする。</li> <li>□ 法面や擁壁等を設ける場合には、周囲の環境との調和に配慮した素材や工法とする。</li> </ul>
	既存樹木・樹林等の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 地域の景観を印象づける高木等の既存樹木は、可能な限り保全するよう努める。</li> <li>□ 植樹をする際は、周囲の自然植生に配慮した樹種の選択に努める。</li> <li>□ 伐採後は、自然の植生の再生に向けた措置を行うよう努める。</li> </ul>

(参考) 区域で見られる景観（丸数字は、次ページの表中の丸数字に対応）





区域で見られる景観	説明
 <p>①白石城天守閣から望む白石市の街並み</p>	<p><b>●白石城天守閣から望む白石市の街並み</b></p> <p>白石城天守閣から東側では白石市の市街地を広く望むことができ、白石市と角田市とを隔てる丘陵地を背景に、低層の建築物を中心とした一体的な街並み景観が形成されている。</p>
 <p>②武家屋敷と堀割（図内赤矢印）</p>	<p><b>●武家屋敷と堀割がある街並み</b></p> <p>かつて城下町であった白石市の歴史性は、街なかに残る堀割や武家屋敷から垣間見ることができ、白石市の特徴的な歴史景観を形成している。堀割は今でも住民による清掃や定期的な管理が行われており、街なかに穏やかな水辺景観を形成している。</p>
 <p>③商店街の様子（図内赤矢印）</p>  <p>④すまゐる広場奥にある壽丸屋敷</p>	<p><b>●白石市の玄関口である駅前周辺</b></p> <p>近代化に伴い整備された白石駅は、遠方からの来訪者を迎える玄関口としての役割を担い、白石城下町までの道のりには商店街やイベント広場などがあり、賑わいある街並み景観を形成している。</p>

